

考古学研究室報告

第 47 集

ナガラ原東貝塚 8

2011年度 考古学研究室の足跡

2 0 1 2

熊本大学文学部考古学研究室

表紙写真：ナガラ原東貝塚調査区（北から）

裏表紙写真：スセン當式土器

序

本考古学研究室は、沖縄県伊江島のナガラ原東貝塚において1998年から計8年（1998～2002年、2009～2011年）にわたって発掘調査を実施してきた。2011年の調査では発掘区の最も下の包含層を掘りあげて基盤層に達し、5～7世紀における伊江島の人々の生業と交易の実態を明らかにするという所期の目的もおおむね達成できたので、一連の調査にピリオドをうつことにした。

足かけ13年の発掘調査で教えられたことは多い。連続する砂の堆積層からは、その形成過程を読み取ることの難しさを教えられた。各層の堆積過程はそれぞれに違っているので、堆積学者や生物学者の示唆に富んだご教示にしばしば助けてもらった。地層が堆積した後にも層内には頻繁な根成孔隙による攪乱が形成されていたし、反対に攪乱層だと捨ておいた層にも本来の堆積が残っていた。貝類学者にヒントをもらってシャコガイの合弁関係から生活面を特定できたことや、立位のシャコガイから柱穴を予測できたことは愉快的な出来事だった。

次に教えられたのは学生とのかかわり方である。学生たち—とくに考古学に接して間もない学部学生は欲のない目で遺物をみる。この視点が土器の分類に生かされて、造形の時系列的な変化を引き出すことができた。学生を信頼して任せることの大事さを改めて学んだが、反対に気を許しすぎると思わぬ不注意につながり、地元の皆様にご迷惑をかける結果ともなりかねない。この兼ね合いがほんとうに難しい。

調査期間中常に意識させられたのは、歴史にかかわる者ならば避けて通れない伊江島の現代史である。1944年の飛行場建設、翌年の地上戦と米軍による占領、島人の慶良間への強制移住、帰島後も続く米軍の占領と島人の犠牲—伊江島の現実に考古学は何をなしえるのだろうか。

今年も多くの方々に支えていただいた。遺跡の地権者である安里誠夫さん、玉城盛一さん、伊江村教育委員会の教育委員長・宮城孝雄さん、教育長・名城政英さん、主査・山城直也さん、川平区公民館長の金城雅人さん、賄いをお引き受けいただいた内間京子さん、西江徳子さん、窮時にいつも手を差し延べてくださった山城康男さんほか伊江島の皆様に御礼を申し上げます。沖縄県埋蔵文化財センターには物心両面で多くのご支援を賜った。学生とともに深い感謝の念を表します。

2012年2月

木下尚子

ナガラ原東貝塚 8



現地説明会風景 2011年9月12日

例言

1. 本書は沖縄県国頭郡伊江村字川平1061-1・1062-1・1071-1番地に所在するナガラ原東貝塚の発掘調査報告書である。
2. 調査は熊本大学文学部考古学研究室を主体とし、伊江村教育委員会・沖縄県教育庁文化課の協力を得て実施された。
調査には科学研究費補助金（基盤研究（A）21242027 代表者：木下尚子）の一部を使用した。
3. 調査担当者は木下尚子（熊本大学文学部教授）と柴田亮（同社会文化科学研究科博士前期課程1年生）である。
4. 調査期間は2011年9月1日から9月14日までの計14日間である。
5. 本書におけるレベル高はすべて海拔を表し、方位は真北を示す。
6. 報告書抄録に示した北緯と東経は、調査基準点P0の世界測地系（15系）による数値である。
7. 調査および合宿、整理作業の実施にあたっては、以下の諸氏・諸機関から多くのご協力とご援助を賜った（敬称略）。
伊江村教育委員会、沖縄県立埋蔵文化財センター、川平区公民館、安里誠夫、内間京子、山城康夫、西江徳子
8. 貝類遺体、脊椎動物遺体、植物遺存体の同定・分析は、黒住耐二（千葉県立中央博物館）、樋泉岳二（早稲田大学）、の各先生、層序・堆積については松田順一郎先生（財団法人 東大阪市施設利用サービス協会）、石材の鑑定は神谷厚昭先生（金城町石畳地質研究所）による。
9. 調査方法や遺物の検討に関しては8に加え以下の方々からご教示を賜った（敬称略）。
安座間充（金武町教育委員会）、川口陽子（筑紫野市教育委員会）、新里亮人（伊仙町教育委員会）、新里貴之・中村直子（鹿児島大学埋蔵文化財調査室）、中村友昭（かごしま教育文化振興財団）、中山清美（奄美市教育委員会）、宮城弘樹（今帰仁村教育委員会）、盛本勲（沖縄県教育委員会）、山崎純男（福岡市教育委員会）、山野ケン陽次郎（熊本大学社会文化科学研究科博士後期課程3年生）
10. 調査参加者は以下の通りである。
木下尚子（熊本大学文学部教員）、柴田亮（同社会文化科学研究科博士前期課程1年）金子真夕（同文学部4年生）大塚奈歩・鬼木しおり・志賀健史・留野優平・中谷美由紀・原田孝典・吉田あかり（同文学部3年生）、入江由真・岡田有矢・河村美沙・黄沢民・原梓・森拓馬・與嶺友紀也（同文学部2年生）、服部瑞樹（九州大学人文科学研究院博士前期課程1年）、香川将慶（国士館大学）
11. 写真撮影については、調査参加者全員が担当した。
12. 本書の監修は木下尚子が、編集は柴田亮が担当した。執筆分担については執筆者名をそれぞれの文末に示した。

本文目次

一	位置と環境	1
二	調査目的と調査経過	2
三	調査成果	5
	1. 層序	5
	2. 遺構	8
	3. 遺物の出土状況	11
	(1) 北1東1グリッドにおける遺物の出土状況	11
	(2) 北1西1グリッドにおける遺物の出土状況	11
	(3) 焼けた痕跡が認められる遺物の出土状況	11
	(4) シャコガイの合弁状況	14
	4. 出土遺物	
	(1) 土器	16
	(2) 石器	23
	(3) 貝製品	31
	(4) 自然遺物	35
四	自然科学的分析	41
	1. ナガラ原東貝塚出土の貝類遺体(2011年度)	41
	2. ナガラ原東貝塚の水洗選別試料より検出された脊椎動物遺体(第8報)	46
五	総括	48

図版目次

図版 1	1	遺跡発掘調査前近景(北から)
	2	遺跡発掘調査終了時近景(南から)
図版 2	1	北1東1グリッド東壁土層断面
	2	北1東1グリッド西壁土層断面
	3	北1西1グリッド北壁土層断面
	4	北1西1グリッド西壁土層断面
図版 3	1	北1東1グリッドI・II区IV下層貝集積状況(南から)
	2	北1東1グリッドI区IV下層イノシシ下顎骨出土状況
	3	北1東1グリッドIII区IV下層イノシシ歯出土状況
図版 4	1	北1東1グリッド大型サンゴと立位シャコガイ
	2	北1東1グリッドI区立位シャコガイ検出状況
	3	北1西1グリッド南壁土層断面東端部立位シャコガイ
図版 5	1	IV下層出土土器 甕口縁部
	2	IV下層出土土器 甕底部
	3	IV下層出土土器 壺口縁部

	4	V / VII層出土土器 底部
図版6	1	V層出土スセン當式土器
	2	V層出土土器 甕口縁部
	3	廃土内出土土器 壺口縁部
	4	廃土内出土土器 底部
図版7	1	石鏃
	2	磨石
	3	その他石器
図版8	1	有孔貝製品
	2	貝符1
	3	貝符2
	4	円形貝製品
	5	皿状貝製品
図版9	1	出土イノシシ骨
	2	脊椎動物遺体

挿図目次

第1図	伊江島の位置と遺跡分布図	1
第2図	調査区周辺地形および調査区位置図	3
第3図	調査区配置図およびコラムサンプリング地点	4
第4図	北1西1グリッド土層断面図	6
第5図	北1東1グリッド土層断面図	7
第6図	調査区土層断面位置図	7
第7図	立位シャコガイ分布状況図	9
第8図	遺構配置図	10
第9図	人工遺物出土状況図	12
第10図	自然遺物出土状況図	12
第11図	焼けた痕跡が認められる遺物の出土状況図	13
第12図	IV下層におけるシャコガイの合弁状況図	15
第13図	出土土器実測図(1)	18
第14図	出土土器実測図(2)	19
第15図	I・II類の比較	20
第16図	刻目の有無	20
第17図	I類の刻目の有無	20
第18図	II類の刻目の有無	20
第19図	刻目分類の比較	20
第20図	突帯の有無	20
第21図	復元口径の比較	20

第22図	底部形態の比較	21
第23図	尖底土器群の比較	21
第24図	平底土器群の比較	21
第25図	底部分類図	21
第26図	口唇部刻目分類図	21
第27図	口唇部断面形態分類図	21
第28図	V/VII層出土土器レベル分布	22
第29図	出土石鏃実測図	23
第30図	出土石器実測図（1）	24
第31図	出土石器実測図（2）	25
第32図	石器の石材・素材石の石材の生産地	27
第33図	層別にみた石材生産地	27
第34図	層別にみた石器の石材と素材石の石材	27
第35図	層別にみた石器の器種	27
第36図	クガニイシ形石器の時期別出土傾向	28
第37図	クガニイシ形石器の大きさ比較	28
第38図	クガニイシ形石器出土遺跡分布図	30
第39図	出土有孔貝製品実測図	31
第40図	出土貝符実測図	32
第41図	出土円形貝製品実測図	32
第42図	有孔貝製品重量分布	32
第43図	有孔貝製品層別科別割合	32
第44図	出土皿状貝製品実測図	33
第45図	皿状貝製品容量	34
第46図	シラナミの殻長組成	35
第47図	ヒメジャコの殻長組成	35
第48図	北1東1グリッド炉址および包含層の陸産貝類遺体組成	43
第49図	トコブシ類	44

表目次

第1表	土層観察表	5
第2表	立位シャコガイ一覧表	8
第3表	焼けた痕跡が認められる遺物の出土点数	13
第4表	シャコガイの出土数と合弁組数	14
第5表	出土土器分類・集計表	16
第6表	出土土器観察表	19
第7表	出土土器復元口径層別一覧表	20
第8表	V/VII層出土土器分類表	22

第9表	出土石器計測値一覧表	24
第10表	ナガラ原東貝塚出土石材・生産地別一覧表	26
第11表	石器機能別・層別一覧表	26
第12表	クガニイシ形石器出土遺跡集成表	29
第13表	有孔貝製品計測値一覧表	31
第14表	皿状貝製品計測値一覧表	33
第15表	有孔貝製品貝種別層別出土表	34
第16表	出土貝類遺体集計表	36
第17表	出土脊椎動物名および骨片数・総重量	37
第18表	哺乳綱骨出土位置一覧表	38
第19表	硬骨魚綱骨出土位置一覧表	38
第20表	頭足綱骨出土位置一覧表	38
第21表	爬虫綱骨出土位置一覧表	38
第22表	出土脊椎動物遺体計測値一覧表（1）	39
第23表	出土脊椎動物遺体計測値一覧表（2）	40
第24表	2011年ナガラ原東貝塚発掘調査の土壌から得られた貝類遺体の詳細	45
第25表	ナガラ原東貝塚2011調査で採取した堆積物コラムサンプル TT11（30×25cm）の構成要素	47
第26表	ナガラ原東貝塚堆積物サンプル TT11から水洗選別によって回収された骨類の同定結果	47